

平成18年度むなかた学びの里主要施策・事業（教育部内部資料）

テーマ「ひらく・つなぐ・いかす」

資料7

I. 宗像市子育て支援計画

プロジェクト	主要事業名	実施主体	開催時期	予算額 (千円)	事業の目的及び具体的内容	事業目標	今後の課題	進捗状況と来年度について
親子 参加型	◎子育て講座	子ども課	通年	1,224	市民に家庭教育の重要性を再認識してもらうとともに、子育て中の保護者の育児力を高めるために、子育て中の保護者と子育て支援者を対象に、育児・健康等をテーマとした「子育て講座」を開催する。また、平成18年度は、賞状褒状物議との共催による「子育て家庭のもったいない講座」等、関係部署との連携事業を推進し、子育て情報の収集・共有・発信を行う。	既存の「子育て講座」の年間開催回数は3回、参加者数は各回40人以上。「ワンポイント子育て講座」の年間開催回数は12回、参加者数は各回40人程度。「親子の外遊び講座」の年間開催回数は5回、参加者数は各回100人以上。「子育て家庭のもったいない講座」の年間開催回数は3回、参加者数は各回30人以上を目指す。	市外からの受講希望者への対応。	10月末までに「子育て講座」を2回開催、122人参加。その内1回は父親の育児参加を促すため、お父さんを対象とした講座を開催した。「外遊び講座」を3回開催、271人参加。「子育て家庭のもったいない講座」は2回開催、60人参加。「ワンポイント子育て講座」は9回開催、254人参加。主に、はじめて子育てをする親の育児力の向上に寄与している。来年度も継続して実施予定。
親子 参加型	★ブックスタート事業	図書館 健康づくり課	通年	564	赤ちゃんと保護者が絵本を介して楽しいひとときを持つことを応援するため、4か月健診の際に、読み聞かせによる親子のふれあいの大切さを伝えながら絵本とおすすめの絵本リストなどを手渡し、子育てを支援する。	年間18回（大島地区は年4回）の4か月健診の際に実施。当日、欠席の人は来館時または自宅訪問にて実施する。フォローアップのため0・1・2歳児対象のおはなし会と1歳児対象のわらべうた講座を開催する。	家庭で絵本の時間を持つきっかけを充実なものにしていくためのフォローアップ事業の充実。	11月1日現在で14回実施済み（全22回予定）。399組の親子にブックスタートを紹介した。19年1月に「わらべうた講座」を開催する。来年度も継続して実施予定。
地 域 参加型	★子育て支援ボランティア養成講座	子ども課	通年	109	地域で子育てに悩みを持つ親の相談や子育て中のグループの活動を支援する子育て支援ボランティアの人材を育成するため、ボランティアを始めようとしている市民を対象に「子育て支援ボランティア養成講座」を開催する。	平成18年度は新規の受講生は募集せず、平成17年度までの修了生のフォローアップのための講座を開催する。年間開催回数は3回程度、受講生は各回30人以上を目指す。	講座修了生の活用。	修了生を対象にステップアップ講座を1回開催、28人の参加があった。平成12年度から実施している養成講座の受講生は約100人になり、その内約6割が何らかの子育て支援活動に従事しているが、さらに人材の活用を図っていく。来年度は養成講座を行う予定。（隔年実施）
地 域 参加型	★家庭教育学級	子ども課	通年	820	家庭教育の重要性を保護者などが自覚するとともに、家庭・地域の教育力を高め、子どもの健全育成を図るため、親子関係・しつけ・地域と子ども等をテーマとして、小・中学校PTA、幼稚園保護者会主催の「家庭教育学級」の開催を推進する。	家庭教育学級については、開設学級数は25校（区）、年間開催回数はそれぞれの学級毎に、年間4回以上を目指す。	家庭教育学級の講座内容の見直し	9月末現在で15講座を開催。次年度以降についても家庭教育の重要性に鑑み、継続して実施する。また、充実を図るために学校間が連携等した開催等を促していく。
地 域 参加型	★子育て支援ホームページ運営	子ども課	通年	1,380	子育てに関する情報をより子育てに身近な立場から提供するために、子育てサークルのネットワークにホームページの運営を委託し、同ネットワークが自らの手により取材し、編集した子育てに関する各種情報を子育て中の親や子育て支援者に提供する。	ページ数は150ページ程度、アクセス件数は、年間15,000件以上を目指す。	スタッフ（ホームページ実行委員）の確保、編集、入力技術の向上。	毎月1回更新、4月1日から10月末までのアクセス件数は約11,000件。今年度市のHPがリニューアルされたため、市の情報と団体の情報を区分し、来年度から団体のHPは自主運営していただく方向で進める。
地 域 参加型	◎子育てサロン支援事業	子ども課 コミュニティ課	通年	270	親子が共に遊んだり交流したり、参加者同士で子育ての情報交換などを行うことにより、育児不安の解消や親の育児力を向上させるため、子育て支援ボランティアが実施する乳幼児のいる親子を対象にした「子育てサロン」の開設・運営を支援し、「地域全体での子育て」を図る。	既存の14箇所のサロンの毎月1回以上の開催と、新規に2箇所以上のサロン開設を目指す。	未開設地域への新規開設支援が必要。	10月末までに地島サロンの新規開設したため、市内の子育てサロンは15箇所となった。親子の仲間づくり、育児不安の解消や育児力の向上を図ることができている。来年度も未開設地域への新規開設を推進する。

平成18年度むなかた学びの里主要施策・事業（教育部内部資料）

テーマ 「ひらく・つなぐ・いかす」

資料7

I. 宗像市子育て支援計画

プロジェクト	主要事業名	実施主体	開催時期	予算額 (千円)	事業の目的及び具体的内容	事業目標	今後の課題	進捗状況と来年度について
市長部局連携	◎子育て支援の推進	子ども課 健康づくり課	通年	8,327	子育て中の親同士の交流の場、体験・学習の場、子育て情報の収集の場、相談の場の提供を行い、子育て中の親の育児力を高め、子育て支援ボランティアとの連携などにより、各コミュニティ・センターなど、地域における子育て支援の拠点として充実を図る。平成17年度からは、子育てネットワークにメイトム宗像内の交流室の運営を委託し、市民協働参加による運営を行っている。また、多様な市民ニーズに対応するため、健康福祉部との連携強化を図っている。	年間新規会員数は1,000組以上、年間来所者数は10,000人以上を目指す。事業として、「出張ふらこっこ」を年間9回、150組以上、「ふらこっこサロン」を年間36回、500組以上、「誕生会」を年間12回、200組以上の参加者を目指す。	地域・家庭・社会全体での子育て支援・組織体制の整備の中心施設となるよう充実を図る。	4月から10月末までの新規登録者は405人、交流室の利用者は7,874人であった。地島、大島などで開設する「出張ふらこっこ」を8回開催、196人参加。「プレイルームサロン」を毎月1回開催、247人参加。「BCGサロン」を6回開催、173人参加。新規事業ではネットワークの参加団体が企画する「みんなのひろば」を毎月1回開催、563人参加。その他に誕生会や双子の会などを開催。来年度も子育て支援センターが地域における子育て支援の拠点となるよう充実を図る。
市長部局連携	★子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）の進捗管理	子ども課	通年	169	次世代育成支援対策を迅速かつ重点的に推進し、もって次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される社会の形成に資することを目的に、地域における子育て支援、親子の健康の確保、教育環境の整備、子育て家庭に適した居住環境の確保、仕事と家庭の両立等について記載した第二次子育て支援計画を平成16年度に策定した。この計画には、市役所内21課が関係しており、平成17年度から21年度までの5年間の進捗管理を行う。	子育て支援計画の庁内ワーキングである子育て支援連絡会議において内部評価を行い、次世代育成支援対策審議会において外部評価を行う。	国の指針による領域が増加したために、現行の子育て支援計画と比較すると施策及び事業数が激増している。このため、今後の進捗管理に工夫を要する。	計画に係る平成17年度実績及び18年度計画の調査を関係各課に対して行い、子育て支援連絡会議において内部評価及び次世代育成支援対策審議会において外部評価を行った。来年度も同様の実施予定。
幼児教育	★幼児教育振興計画（仮称）の作成	子ども課	通年	254	本市の幼児教育振興のため、市としての基本的な考え、具体的施策及び目標等を盛り込んだ「幼児教育振興計画（仮称）」を策定し、幼児教育を効果的に推進する。	「幼児教育振興計画（仮称）」策定のため、庁内ワーキングと幼児教育審議会（3回程度）を開催し、平成18年度中に計画を策定する。	市役所内の関係各課との連携、調整。	庁内ワーキングと幼児教育審議会を開催し原案ができあがった。12月6日から1月5日までの間にパブリックコメントを実施する。来年度は策定されたプログラムに基づき事業を実施していく。
幼稚園教育	★市立幼稚園民営化事業	子ども課	通年	993	市立幼稚園の民営化を平成20年度から実施するため、受託法人の公募及び選考を行い、受託法人を決定する。決定後は、円滑な移行が行われるよう、引継ぎ、合同保育等についての協議を行う。また、園舎改修のための設計を行う。	平成17年度に立ち上げた「市立幼稚園の民営化に関する受託法人選考委員会」により、公募要件、選考基準を定め、平成18年4月中に公募、8月中に受託法人を決定する。	受託法人との民営化に向けた細かな協議。	8月に受託法人候補を決定し、10月には受託法人による地元及び保護者説明会を3回実施した。平成20年度の開園に向け受託法人と協議を重ねていく。
学童保育	★学童保育所運営事業	子ども課	通年	71,573	保護者が就労等により放課後家庭にいない児童を対象に、放課後及び学校休業日に家庭に代わる生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行うため、市内13小学校に15学童クラブを設けている。平成18年度より学童保育所連合会を指定管理者に指定して運営を行っている。	平成18年度から指定管理者制度を導入するにあたり、学童保育所連合会と各学童保育所への指導の強化を図る。	大規模化する学童保育所の施設整備等。	河東小学校の余裕教室を活用し2箇所で開催している。今後、大規模化している河東西小、赤間西小学校学童保育所の施設整備を余裕教室の活用を含め検討する。

II. 宗像市教育21世紀プラン

心の教育	★体験活動報告会	子ども課	翌2月	0	体験学習事業の効果や事業の成果を明確にするとともに、これを市民に周知するため、地域・学校・教育委員会等で実施された体験活動の報告会を実施する。	体験活動参加者だけでなく、広く学校関係者、地域指導者等の報告会への参加者を募る。	毎年、子ども達が体験をもとにすばらしい発表をしているもの参加者が少ない。	平成19年2月に開催予定。来年度も継続して実施予定。
------	----------	------	-----	---	---	--	--------------------------------------	----------------------------

平成18年度むなかた学びの里主要施策・事業（教育部内部資料）

テーマ 「ひらく・つなぐ・いかす」

資料7

I. 宗像市子育て支援計画

プロジェクト	主要事業名	実施主体	開催時期	予算額 (千円)	事業の目的及び具体的内容	事業目標	今後の課題	進捗状況と来年度について
心の教育	★子どもまつり	子ども課	11月3日	1,012	子どもの育成を家庭、地域、学校、社会全体で担う意識の高揚を図るため、0歳児～19歳までを対象に、異年齢が交流できる子どもまつりを実施する。	子どもまつりに携わる関係団体の参加率を高めるとともに、一般市民の祭りへの参加増員を図る。	平成18年度は、青少年育成協議会等の市の組織がなくなることで、参加団体数が減少することも考えられる。	11月3日実施。継続し実施予定
心の教育	★むなかた子ども新聞	子ども課	通年	600	ホームページを中心とした子どもたちへの情報発信。情報教育の推進を図るため、子どもたち自身が取材をし、ホームページを作成する活動を支援する。またあわせて、事業を支援するボランティア（大学生、市民）の育成を図る。	アクセス数：年間6,000件 子ども記者及びボランティアスタッフの拡大と充実を図る。	新規の子どもたちの加入が少なく今年度は公募をしたが申込みもほとんど無く、今後更なる会員の募集方法等を検証していく必要がある。	今年度も新規加入者が少なく、次年度以降は補助金を廃止する予定である。
心の教育	★漁村留学事業	学校管理課	通年	3,721	地島地区の学校及び地域の活性化を図るために、地島以外の児童を対象に、地島小学校へ留学生として迎え入れ、お互いの交流等を通して、相互の豊かな感性・情操を養う。	4年生以上、6名程度の留学生の確保と安全で意義のある留学生活を目指し、本事業の継続を推進する。	漁村留学生を迎え入れることで、学校及び地域の活性化を図る。	6名の留学生を受け入れ（4年生：3人、5年生：2人、6年生：1人）。継続実施予定。
生涯学習	★図書館ボランティアおはなし会	図書課	通年	95	ボランティア養成講座修了者による小さい子のおはなし会を実施し、市民に自己開発、自己実現の場を提供する。必要に応じ研修の機会、活動の場、情報の提供を行い、将来的にボランティアが中心になって企画・開催できるようにする。	毎週行われているおはなし会を推進し、レベルアップのための研修会を行う。	「図書館おはなしボランティア」で他のボランティアを兼ねている人が多くなり、図書館で活動出来る人が少なくなっている。他のおはなしボランティアとの連携や、新たに図書館ボランティアを養成するなど検討が必要。	おはなしボランティアを拡大するため、9月30日と10月7日に「初心者のための読み聞かせ講座」を実施した。来年度も継続して実施予定。
心の教育	★小学校カントスカー事業	子ども課	1学期	860	子どもたちの自主性、協調性、耐性、感性を育成するため、日の里西小・日の里東小の5年生を対象にした交流宿泊体験学習及び吉武小学校の3～5年生を対象にした全校宿泊体験学習を実施する。	たくましく生きる能力を育成するとともに、大学との連携で学生ボランティアの活用を推進する。	この事業は、平成13年度からモデル事業として開始したが、他の学校への波及をどうするか課題である。	今年度は、豊かな体験活動推進事業（吉武小・赤間西小・日の里西小・日の里東小・自由ヶ丘南小）として実施した。平成19年度までのモデル事業であり継続して実施予定。

平成18年度むなかた学びの里主要施策・事業（教育部内部資料）

テーマ 「ひらく・つなぐ・いかす」

資料7

I. 宗像市子育て支援計画

プロジェクト	主要事業名	実施主体	開催時期	予算額 (千円)	事業の目的及び具体的内容	事業目標	今後の課題	進捗状況と来年度について
学力向上	★中学校職業体験学習事業のWORK	子ども課	9月	470	地域の職業への理解を深め、自立を高めるとともに、地域社会の教育力向上を図るため、全校の中学2年生を対象にした職業体験学習を5日間実施する。	生徒全員の参加と地域事業所の協力体制の拡大と支援体制の充実を図る。	一部の事業所からは、生徒たちの積極性が欠けているとの指摘を頂いています。今後も継続してこの事業の趣意を生徒たちに理解させることが必要である。	9月11日から15日までの5日間で実施。生徒956名が247の事業所の協力を得て実施。継続して実施予定
学力向上	★IT指導員派遣事業	学校管理課	通年	3,500	教育活動支援システム・教材コンテンツの活用による情報教育推進のために、小中学校に対して、IT指導員を派遣して教職員の情報教育リテラシーの向上を図る。	教職員等に対して、ITに関する指導・助言を行い、基本操作能力の向上を図る。	学校における調査・資料を作成する際にシステム化による操作、校内ネット整備事業の導入による不具合の発生を解消する。	IT指導員1名(週4日)を22小中学校の小中教職員に対し、指導・支援。継続実施予定
学校評価	★学校の日	教育政策課	通年	0	開かれた学校、信頼される学校づくりを推進するために、全小中学校に対して、毎月10日を「学校の日」と定め、保護者や地域住民が学校を訪問しやすい環境をつくり、外部評価を受ける場及び保護者等への説明責任の場とする。	毎月1000名以上の参加を目指し、地域の学校への信頼度60%以上をめざす。	参加者数の学校間格差が大きい。学校運営における各校の特色を明確にし、保護者や地域にアピールしていく必要がある。また、学校運営方針策定や運営自体に地域の方々を参画できるようにする必要がある。 各校の内外部評価結果を集約し、目的推進のための課題解決を図る。	毎月の訪問者は、約1,000人となっており目標は達成されている。公開授業において道徳や給食試食会などを実施しているが、予測したほどの参加者の増はない。来年度は、各地区のコミセン便りを活用し情報発信を図っていく。
学校評価	★学校教育研究会協議会	教育政策課	通年	1,400	市の教育施策や教職員研修等を効果的に推進し、教職員の資質向上および教育活動の充実を図るために、学校職員及び教育行政関係者を構成員とする協議会を設立し、学校教育の活性化を図る。	学期に1回程度の開催を行い、企画実行率を80%とする。	小中一貫教育等、教育改革に対する教職員全体の目的意識の共有化を図る必要がある。	会議ごとに課題等に対する意見交換がなされており、研究指定校での研修も実施されている。来年度も小中一貫教育を中心に研修等を継続。
学力向上	★学力向上支援事業	学校管理課	通年	54,965	「確かな学力」を育成するため、指導方法の工夫改善に取り込む小中学校に対して市独自で非常勤講師を配置し、推進充実を図るための条件整備を行う。	対象学年における教科の学力の向上を図る。	市指改教諭の活用方法の焦点化及び明確化	学力向上支援教員25名を配置。継続実施予定
学力向上	★市研究指定校協議会	学校管理課	通年	5,300	学校教育における指導方法等の改善充実を促すために、小中学校に対して、毎年数校を指定して学校が抱える教育課題に対応した内容を研究主題として実践的研究を行い、指定後3年目に研究発表を行う。	「研修の日」を定め、研究発表に参画できるよう学校運営の体制整備に努める。研究成果に対する各学校への波及効果や教職員への指導改善意識を高める。	研究構想の具現化及び研究の日常化	研究指定校7校、教科等研究発表会場3校。継続実施予定
心の教育	★ニュー・ランド交流事業	子ども課	8、11月	5,933	語学への関心度を高め、国際的視野を持った子どもの育成を図るため、中学2～3年生(19人)をニュー・ランドへ派遣し、外国の生活、文化、語学を直接体験させる。また、ニュー・ランドからも生徒を受け入れ、国際交流を推進する。	リーダーシップの取れる子どもの育成及び市が行う国際交流に携わるボランティアとして育成する。	ニュー・ランドに派遣した家庭で、来宗時のホームステイをお願いしていたにも係らず、男女数に隔たりがあり、派遣家庭以外にお願いした。派遣者の男女数の割合等について検討する必要がある。また、限られた予算の範囲内では、旅行費用の高騰(航空燃料等)により派遣者数を減らさざるを得ない。	8月17日から27日に実施(生徒19名・スタッフ4名)。またニュー・ランドからは11月2日から7日まで来宗(生徒22名・スタッフ4名)。次年度まで実施予定。以降は廃止を含めて検討する。また、事業の効果を検証するために過去の参加者に対してアンケート調査を行う。
心の教育	★ALT派遣事業	学校管理課	通年	36,550	小・中学校に対して、8名のALTを派遣し、小学校では英語への意欲・関心を高め英語に慣れ親しむことにより、英語活動・国際交流活動を推進する。中学校では、英語活用能力・国際理解意識の向上を図る。	小学校では、英語活動の意欲・関心度を向上させる。中学校では、聞くことや話すこと等の実践的コミュニケーション能力の向上をめざす。	英語活動に係る市としての指導目標及び指導計画に関する指針の作成上記に関する事について、業者及び学校への周知徹底	22小中学校へ語学指導員8名派遣。今後の英語活動の方向性を決定する時期であり、19～20年の2カ年契約を行い、継続性のある取組を行う。

平成18年度むなかた学びの里主要施策・事業（教育部内部資料）

テーマ 「ひらく・つなぐ・いかす」

資料7

I. 宗像市子育て支援計画

アジェンダ	主要事業名	実施主体	開催時期	予算額 (千円)	事業の目的及び具体的内容	事業目標	今後の課題	進捗状況と来年度について
食教育	☆学校給食における学校・家庭・地域連携事業	学校給食課 教育政策課	17・18年度	1,200	学校給食を通じて、「食」の大切さを子供たちや保護者に啓発するとともに、地域の産物等の活用による地域振興を図る。	平成17年度、指定校4校（日の里西、日の里東、玄海、自由ヶ丘を小）で実践。平成18年度、市内全小中学校で実践教育を実施。	今年度実施した「食生活アンケート」結果をもとに、来年度の食指導計画を作成する。	食に関する取り組みは予定通り進んでいる。来年度は、全校での取り組みを継続するとともに、市の研究指定校を設定し、新たな取り組みを計画。
食教育	小学校での食教育	学校給食課	通年	168	日々の給食時間における栄養指導や家庭科、特別活動や保健体育の授業などの場で、食に関する指導を実施。	市内全小学校で食に関する授業に栄養士がかかわり、食の大切さや健康維持のための栄養面での意識を高める。	学校だけによる食教育には限界があるので、家庭における食育の充実が必要である。	授業での栄養士の取り組みは進んでいる。来年度も継続して取り組んでいく。

II. 宗像市生涯学習推進プラン

生涯学習	★郷土史講座	図書館	①未定 ②8月	75	①一般対象に宗像市の歴史と文化財を学ぶ「宗像見聞学講座」を実施し、ふるさと宗像を愛する心を養う。 ②小中学生を対象とした「子どものための郷土史講座」を実施し、図書館所蔵の郷土資料を紹介するとともに、資料の活用を図る。	①開催回数2回、受講者数1回30人を目標とする。 ②開催回数1回、受講者数20人を目標とする。	より多くの人が参加できるように講座開催日時及び周知の方法の検討。	①市民活動推進課と協働で9月9日に1回目の講座を開催。受講者は35人。11月11日に2回目の講座を実施する。来年度も2回の講座を実施予定。 ②8月20日に実施。受講者数14人。来年度はさらに講座内容を深めるために連続講座を実施予定。
生涯学習	★子どもの読書活動推進計画の推進	図書館	通年	2,164	平成16年度に「宗像市子ども読書活動推進計画」を策定したのを受け、この計画に沿った読書活動を推進するために、子どもの発達段階・個性に応じて、あらゆる機会・場所で自主的に読書活動ができるように読書環境の整備を図る。	子どもの読書活動を計画的に推進していくために、家庭・地域・学校と連携を深め、読書ボランティア等の協力を得ながら、必要な環境整備を行なう。	子どもの読書活動の基幹施設である学校図書館の、より一層活発な利用と不読者を減らすため、学校司書と司書教諭・図書館担当教諭の連携が往々重要になるが、学校司書の任期期間が原則3年と短期で不安定なので、司書教諭等学校関係者との連携が築きにくい。	地島小学校を除き、市内小中学校には非常勤嘱託職員として学校図書司書を配置し学校図書館の利活用について学校との連携を図っている。来年度も、今年度同様に連携を図っていく。
生涯学習	★「青少年アンビシャス運動」本のわくわく授読事業	図書館	17年・18年	0	平成17年度・平成18年度の2年、福岡県が事業展開している「青少年アンビシャス運動」のひとつである「本のわくわく授読事業」（平成17年度は読書研究会、平成18年度は読書まつりに）取組み子ども連の読書活動を推進する。	18年度は読書ボランティア派遣事業のほか読書まつりを開催する。	平成18年度は「読書まつり」を実施する予定。平成19年度以降は、国・県の補助事業での取り組みが見込めず、市単独予算になると思われるので開催は困難である。	福岡県アンビシャス運動「本のわくわく授読事業」の一環として、読書まつりを11月16（木）日から19日（日）の4日間開催する。平成19年度は、単独事業になると思われるので、開催は困難である。
生涯学習	★学校図書館活動推進	図書館	通年	271	司書教諭、図書司書を対象にした研修会を定期的に行い、レベルアップ・連携を図るとともに、児童・生徒・教職員からの要望や学習活動の支援を行う。学校図書館・市民図書館の図書をも市内全小・中学校で活用できるように、図書物流システムの導入を検討する。また、「学校図書館推進協議会」を活用して校内をはじめとする読書活動の推進と支援体制を築く。	司書教諭と図書司書との連携強化、図書司書のレベルアップを図るとともに、学校間物流システムを構築し、学校間・市民図書館の蔵書を有効かつ効率的に活用することで、毎年減額を余儀なくされる図書購入費に対応する。	学校司書のレベルアップを図り、学校図書館の利活用、学習支援を行っているが、学校司書の身分が不安定なため、長期安定配置が難しい。	毎月、学校図書司書との研修会を行い、学校図書司書のレベルアップを図るとともに学校図書館の利活用の支援を行っている。学校間相互及び市民図書館との図書の貸借を行っているが、学校間物流システムの構築は、まだ検討中である。司書教諭、図書司書を対象にした学校図書館担当者研修会を2回実施した。1月に3回目をを行う。来年度も、今年度同様に学校図書館活動を推進します。

平成18年度むなかた学びの里主要施策・事業（教育部内部資料）

テーマ 「ひらく・つなぐ・いかす」

資料7

I. 宗像市子育て支援計画

プロジェクト	主要事業名	実施主体	開催時期	予算額 (千円)	事業の目的及び具体的内容	事業目標	今後の課題	進捗状況と来年度について
生涯学習	★図書推進事業	図書館	通年	229	読み聞かせやおはなし会、講演会を実施するほか、除籍資料の無償提供、展示コーナーや様々なイベントを通じて、市民に読書の楽しみや喜びを知らせ、読書活動を推進する。	毎月3回のおはなし会、毎月1回の展示を目指し、イベントは年3回以上行う。講演会への参加者は、前年度以上を目指す。	より多くの人が参加できるように開催日時・回数及び周知の方法の検討。	毎月3回のおはなし会、毎月1回の展示を実施。イベントは子どもの読書週間企画「おはなし会スペシャル」、夏休み納涼企画「よるの図書館であそぼう」、読書週間関連企画「大人のためのおはなしのじかん」を実施した。今後は、11月18日に絵本作家を招いての「読書推進講演会」と11月25日に「本のフィルムコーティング講習会」を開催する。来年度は新たな事業も取り入れながら、継続して実施予定。
生涯学習	★大学図書館との連携	図書館 市民活動推進課	通年	(165)	専門資料を豊富に有する、市内3大学図書館と連携を図り、情報の共有・資料の相互貸借を行い、市民サービスの充実を図る。	平成18年4月稼働。市内3大学図書館が所蔵する資料を、宗像市民図書館で貸し出しできることを広く市民に周知し、利用の拡大を図る。		11月1日現在の利用件数は約70件。来年度も引き続きチラシや広報などで周知を図る。また、大学関係者やSIEと協議を行い、できるだけ早い時期に横断提案ができるように取り組む。
生涯学習	★宗像市民図書館運営計画の策定	図書館	通年	2,000	社会のあらゆる変化に伴い、市民の意識変化の進む中で、図書館に対するニーズも多様化、高度化、専門化している。しかしながら、市民図書館中央館及び分館は開館以来かなりの年数が経過し、狭あいかつ老朽化等に伴い、新たな変化に対応していくことが困難な状況である。このようなニーズに対応するため、人口10万人を想定した、今後10年間の「宗像市民図書館運営計画書」を策定する。	「宗像市民図書館運営計画」策定のため、計画案を宗像市民図書館協議会の中で審議しながら、18年度中に策定する。	庁内関係各課との連携・調整	ワーキングで運営計画原案を作成。11月以降は図書館協議会に諮りながら策定する。来年度からは、計画の中の取り組みを推進していく。

■ハード事業

★学童保育所施設改修事業	子ども課	H17.5～ 12	5,305	学童保育所の施設のトイレが老朽化しているとともに学童児童数の増加に伴い使用に支障をきたしているため年次的に整備する。	東郷小学校学童保育所のトイレの整備により衛生環境の改善を図る。	当初計画では、毎年3箇所の整備を予定していたが、市の厳しい財政状況により、実施箇所を減らさざるを得ない。	今年度は、東郷小学校のトイレ改修を実施中。次年度以降も継続して実施予定。
★日の里中学校改築事業	学校管理課	H18.4 ～H18. 12	6,319	昭和50年に建築され老朽化が進み、生徒・教職員の安全確保等のため、学校の全面改築工事6カ年の予定で行い、学校教育環境の向上を図る。	平成18年度：基本設計 平成19年度：実施設計 平成20年度：屋内運動場改築、 平成21・22年度：校舎改築 平成23年度：屋外環境整備	平成18年度から平成23年度の6ヵ年計画で改築事業を実施する。校舎全面改築が十数年に一度の機会であることから、今後の本市の新たな教育に対応した施設整備が必要となる。	地元説明会5回、基本設計に係る検討委員会を2回実施。次年度は実施設計を予定している。
★中学校給食施設建設事業	学校給食課	H17.6 ～	10,926	平成17年度～平成22年度に中学校6校の単独調理場方式の給食施設を建設するため、平成16年度に基本設計を行う。平成18年度は、中央中学校の給食施設を建設する。	より良い給食の提供と身近なところでの調理業務を実施し食教育の充実を図る。	平成19年4月の給食開始に向けて、民間委託業者の選考、県栄養職員の増員配置要望、学校との給食運営の協議を行う。	今年度は予定通り進んでいる。来年度は、河東中の建設を予定している。
★城山中学校耐震補強等工事	学校管理課	H18.6～ H18.9	103,733	校舎及び屋内体育館の耐震補強等の工事を実施し、学校施設の耐震性能を確保する。また、職員室の拡張工事を併せて行い、教育環境の向上を図る。	耐震補強は柱、壁等の補強を行う。職員室拡張 A=255㎡	9月供用開始に向けて夏季休業中に工事施工し、教育環境の充実を図る。	8月末に職員室改修工事完了。9月末に耐震補強工事完了。次年度は図書館をプレハブから本校舎に移設する工事を予定。